

EMS 監査のポイント アイソス6月号 「リスク及び機会」をさがせ 安達宏之氏 著より

改善に向けた最大の「追加ルート」

2015年版における最も重要な改訂ポイントは、「環境マネジメントの戦略化」です。EMSを本業へ統合させ、戦略的な取組みを行うことを求めました。

2015年版は、この具体的な実現手段として、主に図表1の「追加ルート」を設けました。まずは、「追加ルート」の全体像を見ておきます。

組織の状況を踏まえてEMSを推進させるために、「外部及び内部の課題」と「利害関係者のニーズ及び期待」を決定し、EMS活動を行う上で考慮することを求めています(細分箇条4.1、4.2)。わかりやすく言えば、組織が抱える経営課題等にどのようなものがあるのかを把握するのです。

そして、そうして決定した事項に関連した「リスク及び機会」にどのようなものがあるのかを決定します(6.1.1)。なお、その際、環境側面や順守義務に関連した「リスク及び機会」も決定します。

決定された「リスク及び機会」については、必要であればEMSの活動テーマに設定し、活動を展開させることを求めています(6.2など)。

2004年版では、環境側面を抽出し、その中から著しい環境側面を決定するとともに、環境側面に関連する順守義務(法的及びその他の要求事項)を決定していました。これら決定事項を踏まえてEMS活動のテーマを定め、その目標展開活動や運用管理を行うことになっていました。

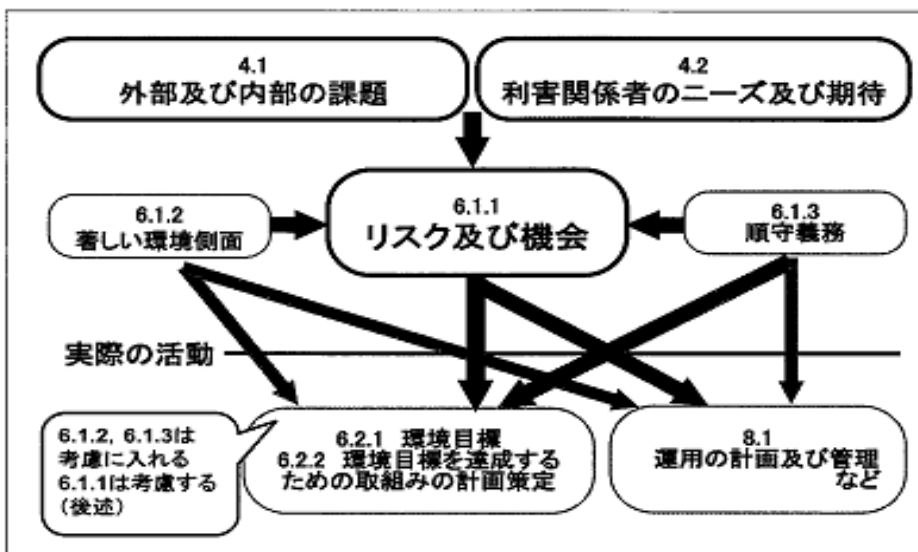
こうした個別の環境側面から検討を開始し、活動テーマを絞り込んでいくプロセスは、いわば「ボトムアップ」の手法となりがちです。

これに対して、2015年版の「リスク及び機会」の決定プロセスは、経営課題等から導き出されるものなので、いわば「トップダウン」の手法となっています。

もちろん、2015年版でも、著しい環境側面と順守義務はしっかりと位置づけられているので、2004年版のプロセスが消えたわけではありません。

2015年版は、EMS活動のテーマを決めるために従来のルートに加えて、新たな「トップダウン」の追加ルートを設けたと考えるとわかりやすいでしょう。

〔図表1 最大の追加ルート(4.1、4.2、6.1.1)〕



自社の経営課題を振り返る

「追加ルート」をもう少し詳しく見ていきましょう。

2015年版の「4.1」では、組織に対して「外部及び内部の課題」を決定することを求めています。

外部及び内部の課題とは、「組織の目的に関連し、かつ、その環境マネジメントシステムの意図した成果を達成する組織の能力に影響を与える」ものであるとされ、「こうした課題には、組織から影響を受ける又は組織に影響を与える可能性がある環境状態を含めなければならない」とも定められています。

要するに、「環境上の課題を含めた、組織が抱える課題を自ら整理すること」を求めていると言えるでしょう。

こうした外部及び内部の課題について、2015年版の「附属書A(参考)この規格の利用の手引」の「A4.1」では、「高いレベル」のものであることを明らかにしています。つまり、細かな課題をリストアップすることを求めているのではなく、経営課題のような大きな課題を示すことが、ここでの要求事項となっていると言えるでしょう。〔終〕

心が和む日本の名言

鴨長明「方丈記」

ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず

川の流れは絶えることがなく、常に移り変わっていきます。淀みに浮かぶ水泡も、消えたり生まれたりして、一つとして同じではありません。

世の中も同じです。私達には、勝者も敗者もなく、大きな流れの中の小さな存在でしかありません。

だからおごることもなく、自分の力を過信することもなく、人に支えられ、生かされていることに感謝して生きていきましょう。

〔あとがき〕

季節の移り変わりが激しく、もう梅雨の時期となりました。

季節の移ろいや、経済状況の変化に敏感に反応し、さらなる改善「継続的改善」に向かって邁進されますよう、微力ながらお手伝いをさせて頂きたいと願っています。フジコンネット 藤村久男